

国際的動向を踏まえた オープンサイエンスに関する検討

～我が国のあるべき姿の形成に向けて～

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

国際的動向と我が国の現状

国際的動向

近年、諸外国においては、「オープンサイエンス」など研究成果、リサーチデータの共有や相互利用を目的としたオープン化の概念を強く意識。

→イノベーション創出の源泉となるオープンアクセス(OA)、オープンデータ(OD)などが含まれる。

研究成果、リサーチデータのオープン化に関する議論が加速

- ① G8等の国際会合やOECD等の国際機関でも議論。
- ② 諸外国の研究資金配分機関においては公的研究資金による研究成果をオープン化する動き。
- ③ OA、ODに関する議論を行う国際的組織(WDS、RDA等)においても多数の研究者が参画して議論。
- ④ ステークホルダーとしてシチズンサイエンスの概念を含むオープン化の議論。
- ⑤ イノベーション、新産業創出への期待。

我が国の現状

国としてオープンサイエンスへの対応が十分ではなく、特にリサーチデータに関する議論は組織的にはほとんど行われていない。

このままでは国際的議論の進む中、我が国の明確な意思を示すことなく、デファクトスタンダードが形成される恐れ。その結果、我が国もしくは世界全体にとっても適切ではないオープン化が促進される可能性。(米国とEUは相互にデータ利用できるが、日本の研究者は利用できない状況がある。)

国際的な議論の輪に加わり、我が国のプレゼンスを示すことが肝要

ステークホルダーとなる関係者が共通認識のもと、世界情勢を踏まえながら国内での実りある議論を深め、我が国の基本姿勢、基本方針を早急にとりまとめることが必要。

国際的動向に見るオープン化の必要性

1. 研究成果を自由に再利用・イノベーションにつなぐ基盤づくりが必要

- ① 同じ研究を繰り返すことを避け、成果（論文、リサーチデータ）を再利用して次世代で活用する（費用節約）
- ② データ生成者とのつながりがなくとも、存在を公開することで異分野での利活用を進展（新規分野開拓）
- ③ 研究成果のデータが、どこにあるかを把握しやすくし、あるいは（プロジェクト終了後）アクセスできない現状を改善
- ④ 担当研究者の退職・プロジェクトから離れた後、価値あるデータを管理・理解できる後継者がおらず放置・削除される現状の改善
- ⑤ オンラインジャーナル購読料の高騰に伴い、大学等における研究成果（論文）に対するアクセスが困難になりつつある現状の改善（シリアルズ・クライシスの打破）

2. G8、OECD、GRCでは、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めている。

- ① 公開して便益のあるデータについての事例を増やす
- ② 公開して損失が発生するデータを見極めて国際競争にも配慮する。

3. 研究成果の公表・出版（原著論文等）において、結果の再検証が保証されない成果の増大

- ① 社会からの科学技術への信頼性に影響
- ② 将来、科学技術が進歩したときに過去の真偽確認ができない等
- ③ 研究不正を回避する意味でも重要